



暑い夏を快適に過ごすために 窓から考えるエコハウスづくり



▲温度の上昇の違いを実験

7月2日、郡築小学校で窓から考えるエコハウスづくりが行われ、同小学校の5年生が参加しました。

これはYKKAP九州製造所が自然環境と住まいの付き合い方や窓の重要性を知ってもらおうと開催したものです。

同社の社員が講師となり、夏に家の中が暑い理由や窓の役割などを説明。その後、窓や断熱材を模したキットで家の模型をつくり、断熱材がなく窓の構造が違う模型と比較し、熱の伝わり方の違いを楽しく学びました。

茅の輪をくぐって無病息災 遙拝神社 茅の輪くぐり



▲茅の輪をくぐる参加者

6月30日、豊葦原神社（遙拝神社）で「夏越の大祓」の神事があり、参加者は参道に設けられた茅の輪をくぐりました。

夏越の大祓は、盛夏を前に無病息災を祈る祭りで、半年間についたけがれを茅の輪をくぐることでよってはいらひのけ、次の半年間の健康を祈る神事として、全国各地の神社で行われています。

境内では、人がくぐる用とペットや自動車用の茅の輪もあり、雨が降るあいにくの天気の中、参加者は8の字を描くよう4回くぐりました。

薬物乱用のない八代にするために 薬物乱用防止キャンペーン



▲啓発チラシを手渡す参加者

6月29日、ゆめタウン八代で薬物乱用防止の街頭キャンペーンが行われました。

これは「6・26国際麻薬乱用撲滅デー」にあわせて毎年全国各地で行われており、薬物乱用の弊害を啓発し、薬物乱用のない地域づくりを推進するものです。

八代地区薬物乱用防止指導員やボーイスカウトに所属する子どもたち、ヤングボランティア団体など約120人は、来店者に薬物乱用防止に係る啓発グッズやチラシを配布しながら国連支援募金と呼び掛けました。

できることから少しずつ 八代海河川・浜辺の大そうじ大会



▲流木を運ぶ参加者

6月22日、鼠蔵町の球磨川河口で「八代海河川・浜辺の大そうじ大会」が開催されました。「八代海北部沿岸都市」地域連携創造会議と「次世代のためにがんばる会」が毎年開き、今年で15回目です。

高校生や市民団体、企業などから約500人が参加し、ごみ拾いと流木の運搬の二手に分かれ活動しました。初めて参加した塩田あかりさん（八代清流高校2年）は「学校でもごみが落ちていたら拾うなど美化活動に努めたいです」と話しました。

スポーツで八代を元気に 令和元年八代をスポーツで盛り上げる会

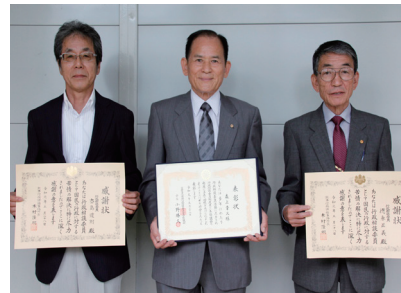


▲松中信彦さんによるハンドボール講座

6月10日、八代ホワイトパレスで、「令和元年八代をスポーツで盛り上げる会」が開催されました。この会は、松木喜一八代商工会議所会頭が発起人となり、市内の各種団体、企業、学校などに呼びかけ210人が参加しました。

同会では、ハンドボールやバドミントン、アーチェリーの各協会代表者らが大会に向けての抱負や競技の見所などを紹介し、2019女子ハンドボール世界選手権大会特別サポーターの松中信彦さんは、ハンドボールの魅力や醍醐味などをボールを使いながら説明しました。

市民の身近な相談役として尽力 行政相談委員へ表彰状・感謝状贈呈



▲左から委島さん、森上さん、徳永さん

5月28日に行われた令和元年度行政相談委員全体会議で森上幸久さん（坂本町担当）に全国行政相談委員連合協議会会長表彰状が授与されました。また、徳永正義さん（鏡町担当）と委島道則さん（千丁町担当）に熊本行政評価事務所長感謝状が贈呈されました。

行政相談委員は、市民から行政に関する相談や要望を聞き、問題解決に向けて助言や関係機関に対する改善の申し入れなどを行っています。森上さんは「今後も地域住民のために続けていきたい」と話しました。

歴史と製品の魅力を紹介 なるほど！紙づくりの世界



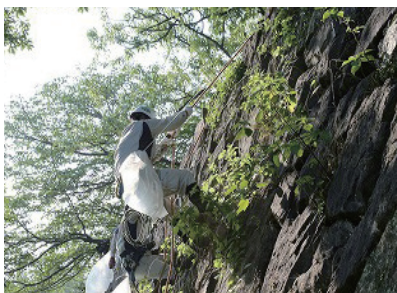
▲学芸員の説明に聞き入る来館者

7月12日、夏季特別展覧会「なるほど！紙づくりの世界」手漉きと機械製紙」が市立博物館で始まりました。

この展覧会では、古文書や和紙づくりの道具、機械製紙が開始した当時の写真など、多彩な和紙と洋紙の歴史、製法・製品を紹介しています。

開会式では、同博物館の松井葵之館長が「八代は紙づくりと深い関係がある。八代ならではの歴史と産業について理解を深めてほしい」とあいさつ。来館者は、学芸員の説明を熱心に聞きながら鑑賞しました。

築城当時の美しさを 八代城跡石垣清掃、除草ボランティア



▲ロープ高所作業技術を生かし石垣についた草を採る参加者

7月6日、NPO法人しらさぎの会員171人が文化財保護に貢献するボランティア活動として八代城跡石垣の清掃、除草作業を行いました。参加者は高所作業技術を生かして、除草を行い、日頃は除草が困難な石垣もきれいになりました。

同法人の沼田百合子代表は「クルーズ船などで八代を訪れる外国人観光客にも美しい八代城跡を見てほしい」と話しました。

同法人は、平成11年から、八代城跡の清掃を行い今年で19回目となります。

関係機関と連携して迅速な対応 熱中症対応訓練



▲日陰に患者を移動

7月4日、県営八代運動公園で熱中症対応訓練が行われました。訓練はスポーツイベントで熱中症患者の発生が予想されることから、八代広域行政事務組合消防本部、高野連職員などが患者への対処方法、情報共有の徹底など有事の際の対処方法を確認しました。

訓練は県営八代野球場で試合観戦中に熱中症患者が9人発生した想定で行われ、高野連職員が患者を発見すると、消防へ連絡。消防職員は到着後、高野連職員から患者の状況などを引き継ぎ、重症患者を病院へ搬送しました。

世界のトップアスリートへ 強化選手指定証交付式



▲八代が誇るトップアスリートたち

6月28日、「トップアスリート育成事業」で強化指定選手に選ばれた6競技22人に八代ホワイトパレスで指定証が交付されました。

同事業は国際大会で活躍する本市出身者を輩出するため、強化選手を指定し、選手の競技力向上と支援活動の推進を図るものです。

交付式で松永松喜八代市体育協会会長が「競技種目の底上げや地域振興につながるよう頑張ってください」と激励すると、八代東高校の野田統馬選手（バドミントン）は「八代を盛り上げられるよう頑張ります」と決意を述べました。

クルーズ拠点完成に向けて 八代港初の岸壁ジャケット据え付け工事



▲海底に据え付けられるジャケット

6月26日、八代港外港地区で岸壁の新設に伴うジャケット据え付け工事が行われました。

ジャケットとは岸壁の強靱化を目的に設置するもので、前面には防舷材と呼ばれるゴムが取り付けられており、船舶と岸壁が接触し損傷するのを防ぎます。

工事初日の26日には国土交通省九州地方整備局職員や工事関係者など約90人が、長さ60メートル、幅20メートル、高さ14メートルのジャケットをクレーンで据え付ける工事を見守りました。

坂本町の活性化に 食処さかもと鮎やなブレオープン



▲炭火でじっくりとアユを焼きます

6月23日、食処さかもと鮎やなブレオープンし、地域住民や市、県などの関係者約60人が出席しました。

これは坂本住民自治協議会が坂本町の人口減少に歯止めをかけ、さらなる地域活性化を図るため平成29年に開業したもので、今年は8500人の来客を見込んでいます。

式典の後、出席者らがアユの塩焼きなどの料理を堪能し、オープンを祝いました。試食した亀田宏子さん（坂本町）は「たくさんの人に食べに来てもらいたい」と笑顔で話しました。